

学校運営の検討と 今後の進め方について

特別支援学校の設置方針

目指す学校の姿 ⇒ 期待される効果

1

障がいの有無によらず、小中学生との交流及び共同学習の機会を可能な限りつくり出すことのできる学校
⇒共に学ぶ機会の増加による、インクルーシブな共生社会の担い手としての意識の醸成

2

特別支援学校、自校専用LD(学習障害)等通級指導教室の設置による、学びと支援の連続性が確保された学校
⇒障がいの状態、特性及び発達段階等、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場の実現
⇒身近な地域で教育を受けられる安心感

3

松本市インクルーシブセンターと連携し、通常学級における多様性を包み込む学びの充実を図るとともに、多様な学びの場の柔軟な変更が実現できる学校
⇒学校全体の学びの充実及び支援力の向上
⇒一人ひとりの、その時点における教育的ニーズに対する的確な対応に基づく、成長、発達の最大限の保障

4

松本市の特別支援教育及びインクルーシブ教育システムの拠点として、先行モデルとなる学校
⇒特別支援教育のセンター的機能の強化
(特別支援教育に関する情報発信、児童生徒や保護者等に対する教育相談等)
⇒インクルーシブ教育システムのフラッグシップ校として、他校への先行事例の提供及びノウハウの共有

1

障がいの有無によらず、小中学生との交流及び共同学習の機会を可能な限りつくり出すことのできる学校
⇒共に学ぶ機会の増加による、インクルーシブな共生社会の担い手としての意識の醸成

一体的な運営実現に向けた議論

管理職

校長の両校兼務

教職員

一つの職員室

校務分掌の整理

教職員の両校兼務

教育課程

校名・校歌

PTA・こども会

一つの職員室

- ・ 物理的に近いだけでなく、コミュニケーションの質的な担保が重要
- ・ 一緒にいても溝がある状況は避けるべきで、教頭の役割が重要になる。
- ・ 騒がしい環境での相談業務に対応するため、保護者相談や電話相談用の別室確保、電話スペースが必要
- ・ 大きな職員室であれば、発言する声が綺麗な音できちんと耳に入ってくるような音響装置が必要となる。
- ・ 職員室自体がインクルーシブな環境でなければならない。先生たちの中にも、車いす使用、聴覚障がい、弱視、発達障がいなどの方もおり、多様な教職員が働ける環境が大切

校務分掌の整理

- ・ 県・市町村・校長会主催の各種会議への重複参加の解消
- ・ 校務分掌のスリム化と軽減化の実現
- ・ 2校間で校務分掌のすべてが一緒に良いかは、現場レベルで具体的な検討が必要

教職員の両校兼務

- ・ 特別支援学校と小中学校の一体的な運営の中で、一人の子を育てていくのであれば、特に分教室の2年間について兼務発令がないと指導できないということにならないように、県と市でよく調整を図るべき。

教育課程

- ・ 特別支援学校と併置される小中学校において、各カリキュラムの指導内容、指導方法の展開という全体的な教育課程の議論を進め、どういう教育を、どういう学校を目指していくのかということについて、共通理解をしていく必要がある。
- ・ インクルーシブ教育の具体的なイメージを共有し、現場の教職員の夢や希望を語る場が必要
- ・ 管理職も含めた現場のプランニングへの参加が重要

校名・校歌

- ・ 歴史ある学校への地域住民、卒業生の思いを重視し、関係者の意見を大切にしたい。
- ・ 新たな歴史を作る上で、地域の人々が学校を大切に育てる意識の醸成を図りたい。
- ・ 法律上は違う学校であっても、一緒の場で学んでいるのであれば、学校の校門にある「源池小学校」「清水中学校」という名称はそのままにして、入学式とか卒業式のときは、みんながそこで写真を撮ったりするような感じで良いのではないか。
- ・ 既存の校歌が難しい場合、特別支援学校で学ぶお子さんたちも、源池小学校や清水中学校の校歌をみんなで一緒に歌えるように、例えば、愛唱歌の制定なども含めて、検討が必要ではないか。

PTA・こども会

- ・ 学校PTAやこども会などの保護者の活動も、小学校と特別支援学校で別々にならないようにあり方を考えてはどうか。

2

特別支援学校、自校専用LD(学習障害)等通級指導教室の設置による、学びと支援の連続性が確保された学校

⇒障がいの状態、特性及び発達段階等、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場の実現

⇒身近な地域で教育を受けられる安心感

3

松本市インクルーシブセンターと連携し、通常学級における多様性を包み込む学びの充実を図るとともに、多様な学びの場の柔軟な変更が実現できる学校

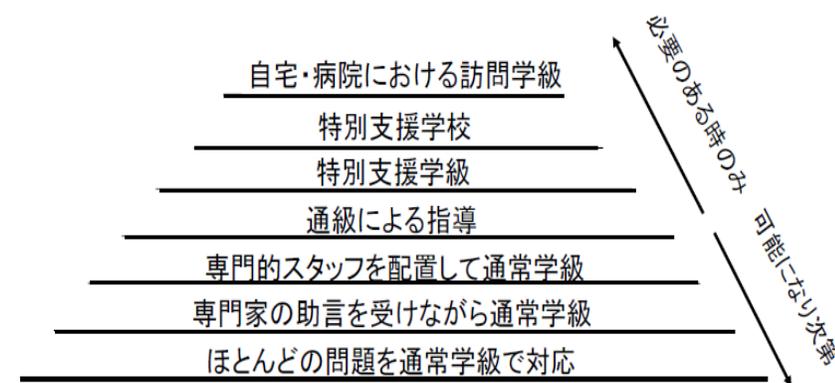
⇒学校全体の学びの充実及び支援力の向上

⇒一人ひとりの、その時点における教育的ニーズに対する的確な対応に基づく、成長、発達の最大限の保障

校内教育支援委員会の充実

- ・ 小学校と特別支援学校の校内教育支援委員会を統合
通常学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校の各学びの場を、子どもの状態に応じて柔軟に変更できるシステムができないか。
- ・ 柔軟な学びの場の変更
学校内における学びの場の変更は、松本市教育支援委員会を通さず校内で決定できる権限を持たせることは可能か。

日本の義務教育段階の多様な学びの場の連続性



平成24年7月中央教育審議会初等中等教育分科会資料より

松本市の特別支援教育及びインクルーシブ教育システムの拠点として、先行モデルとなる学校

⇒特別支援教育のセンター的機能の強化

(特別支援教育に関する情報発信、児童生徒や保護者等に対する教育相談等)

⇒インクルーシブ教育システムのフラッグシップ校として、他校への先行事例の提供及びノウハウの共有

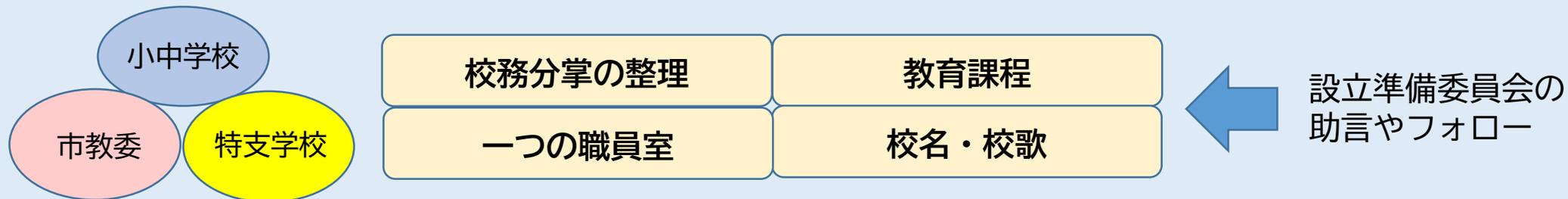
フラッグシップ校としての役割

- ・国の教育制度への挑戦的な取り組みである。小学校の教室の中に、何も考えずに、ただ一緒にさえいれば良いというのではなく、専門性のある教育が受けられる学校として全国に広げていくためにも、「障がいのある子どもたちもちゃんと包み込む学校である」というメッセージを出していくことが、フラッグシップ校としての源池小学校の役割になっていくのではないかと。
- ・従来にない仕組みの学校を作るという挑戦的な取り組み。初期段階では、思いのある人たちが「何でもやってみる」ことで進められるが、理念を後世に継承する仕組みは重要。どこまでやれるかということは決めておく必要がある。
- ・具体的な子どもの校内生活のイメージを共有することが必要
- ・児童生徒、教職員、保護者などの感情に配慮しながら、制度や仕組みを拡大する限界点を見極める必要がある。

目指す学校の姿の実現に向けて

障がいの有無によらず、小中学生との交流及び共同学習の機会を可能な限りつくり出すことのできる学校

源池小学校への分教室設置に向けた具体的な議論



特別支援学校、自校専用LD(学習障害)等通級指導教室の設置による、学びと支援の連続性が確保された学校

松本市インクルーシブセンターと連携し、通常学級における多様性を包み込む学びの充実を図るとともに、多様な学びの場の柔軟な変更が実現できる学校

市教育支援委員会や校内教育支援委員会のあり方

松本市の特別支援教育（特にインクルーシブ教育システム）の拠点として、先行モデルとなる学校

フラッグシップ校としての役割（センター的機能など）